

帯広開発建設部

Web 広報誌

第19号

平成29年9月15日

発行



平成28年8月出水

堤防の災害復旧工事

8月9日に士幌町で竣工式を開催

帯広市、士幌町、中札内村と帯広開発建設部で共催

平成28年8月の記録的な大雨により、札内川、音更川では堤防決壊を含む甚大な被害を受けたことから、帯広開発建設部では、被害発生直後から災害復旧工事を進めてきました。

この度、決壊した3箇所の堤防の本格的な復旧が完了したことよ

り、被災地である帯広市、士幌町、中札内村との共催で士幌町音和橋地先を会場に8月9日に竣工式を開催しました。地元の国会議員のほか、関係市町村の

首長、農協の代表者、復旧工事に携わった建設会社の関係者など約60名が出席。始めに小林士幌町長が式辞と

して、1年で竣工を迎えたことについて関係者の理解と協力に感謝の言葉を述べました。

続いて和泉北海道開発局長の挨拶、来賓の祝辞のあと、西岡帯広河川事務所長が工事内容を報告。その後、復旧状況を確認するため、西岡所長の先導で来賓者を堤防まで案内し、音更川の復旧現場の様子を確認しました。

被災から1年で

本格的な復旧工事を完成



来賓によりくす玉が開披され、工事の完成を祝った。向かって右端が河川帯広開発建設部長。

被災後の仮復旧後、

速やかに本復旧工事に着手

「音更川左岸中士幌地に緊急工事で仮堤防が設置され、12月下旬から本格的な工事が進められてきました。」

堤防が決壊した3箇所では、「札内川左岸上札内橋下流地先外災害復旧工事」（中札内村）は斉藤井出建設（株）、「札内川左岸大正橋下流地先災害復旧工事」（帯広市）は宮坂建設工業（株）、

「西岡河川事務所は、被災直後の応急復旧工事から本復旧工事の竣工までの間、担当する建設会社とともに、災害復旧に対応してきました。」

帯広開発建設部では、ほかの災害箇所についても、早急に本格的な復旧を完了させるとともに、防災意識の啓発や減災に向けた取組を継続していきます。

会場に戻り、壇上で来賓によるくす玉の開披を行い、出席者一同で工事の完成を祝い



堤防から復旧工事の説明をする西岡帯広河川事務所長(写真中央)。来席の関係者も真剣な眼差しで現場を見つめる。



復旧工事の様子はHPをご覧ください(↑写真をクリック)

災害時の情報収集及び提供を想定した 防災通信訓練を実施しました

帯広開発建設部では、災害時の応急復旧作業の支援をするため、災害対策用ヘリコプター及び災害対策用機械・機器を使用し、災害情報の迅速かつ効果的な収集及び自治体への災害情報の提供を行っています。

7月31日に芽室町と連携し、災害想定箇所である祥栄橋（芽室町内）と芽室町役場の2箇所を訓練会場として防災通信訓練を実施しました。訓練は報道関係者に公開のもと行われました。

祥栄橋（災害想定箇所）

衛星通信車を設置し、被災映像の収集を行うとともに、北海道開発局本局、帯広開発建設部本部及び芽室町役場に映像を伝送しました。ヘリコプターによる空撮も予定されていましたが、天候の都合により中止となりました。

また、マンホールに収納されている光ケーブルの断線を想定したネットワークの復旧訓練を実施しました。訓練では、マンホール内のガスの測定から接続替えの一連の作業を確認しました。



芽室町役場

屋外庁舎駐車場に可搬型衛星通信装置及び公共用ブロードバンド移動通信システムを設置し、芽室町役場内にテレビ会議装置の回線を確保する訓練を行いました。

被災想定箇所である祥栄橋からの映像を受信するとともに、北海道開発局本局・帯広開発建設部本部及び芽室町役場を回線で結びました。テレビ会議には、報道関係者が見守る中、当部職員及び芽室町役場職員が参加しました。



訓練の概要と実施場所は報道発表資料をご覧ください(←文字をクリック)



オビヒロホコテンに参加

7月30日、この日はオビヒロホコテンのイベントで帯広の街中に乗り物が大集合！

帯広開発建設部では、一般参加者に対する防災意識の啓発を目的として、『水陸両用車』を展示しました。

帯広開発建設部のブースでは、災害時における水陸両用車の役割や過去の活動実績などを説明したほか、

災害時に発足され支援を行(TECH-FORCE)のパネルなども展示しました。また、会場では子供を対象に車両の乗車体験、TECH-FORCEの作業服や帽子の貸し出し(試着)などを行いました。

子供たちも大はしゃぎ

普段見ることのできない珍しい車とあって、子供たちも興味津々。

乗車待ちの列ができるほどで、展示を行った5時間でも200名以上の子供たちが試乗を体験しました。

大好評!

展示された水陸両用車



水陸両用車とは・・・

一般車両の走行が困難な沼地、湿地、水上、雪上等を走行できる特性を活かして災害時における資機材の運搬や救出を効率良く行うために使用される車両です

オビヒロホコテンに参加しました

～水陸両用車出動！～

十勝港の話・十勝港みたと見学会を開催

当日はあいにくの霧・・・でも！

見学会が行われた7月24日、この日はあいにくの曇り空。十勝港には霧が立ちこめていました。

しかし、搭乗して数分後、立ちこめていた霧が少しずつ晴れていき、この日一番の天気になりました。まだかすかに霧は残ったものの、景色を見ることができるようになり、参加者の方からは喜びの声があがりました。

十勝港の歴史や役割を紹介

乗船したあとは旧フェリーターミナルにて十勝港の歴史や役割を紹介。

重要港湾である十勝港の着工から今に至るまでのあゆみ、また、十勝港が果たす役割、利用状況などを説明しました。質問を募集すると「防波堤の長さは何くらいなのか」など、多くの質問が寄せられました。

霧が晴れ始めた十勝港



出前講座のようす



職員と話す参加者



Click!!

出前講座を行っています

詳しくはこちら→
をクリック

帯広開発建設部では、国民の皆さんに開発行政をより知ってもらうことを目的とする出前講座や現場見学会を行っています。子供から大人まで受講・見学いただける幅広いメニューを用意していますので、是非ご利用ください。

治水功労者表彰伝達式

「河川愛護月間」（7月1日～7月31日）における取組の一環として、「治水功労者表彰」伝達式を7月26日に帯広開発建設部で行いました。当表彰は、北海道開発局が管理する河川の治水や河川愛護について功労のあった個人又は団体に対し表彰を行い、河川愛護思想の高揚を図ることを目的とし、昭和57年度から実施しています。

この度表彰された藤堂 博氏は、十勝川イカダ下りの実行委員長を長期に渡って務められるとともに、平成24年からは「十勝川中流部市民協働会議」の事務局長として地域住民・市民団体・行政の協働による川づくりの推進に積極的に取り組まれています。また、平成27年からは「サケの学舎」を設立し、子供教育の視点に立ち十勝川特有の河川環境の啓発などに寄与されたことなど、河川利用や河川環境の啓発に多大な実績が認められたことにより今回の受賞に至りました。



道路功労者表彰伝達式

「道路ふれあい月間」（毎年8月1日～31日）の行事の一環として、平成29年度「道路功労者表彰」（公益社団法人日本道路協会会長表彰）伝達式を8月30日に新得町役場で行いました。

当表彰は、道路事業並びに道路の愛護・美化保全・防災等に尽力された団体及び個人の方を対象として、公益社団法人日本道路協会会長が表彰するものであり、新得町内で活動される「花と道の会」が受賞されました。「花と道の会」は、国土交通省が進める「ボランティア・サポート・プログラム」の実施団体として、植栽活動等を長年に渡り実施しており、このことが「道路の清掃、美化」に顕著な功績があったものと認められ、今回の受賞に至りました。伝達式には、浜田新得町長ほか関係者が臨席のもと、帯広開発建設部長から会長である青柳茂行氏に表彰状が手渡されました。



国道274号日勝峠の通行止めを10月末までに解除予定

平成28年8月30日に襲来した台風10号の影響により、通行止めとしている国道274号日勝峠（日高町千栄～清水町清水・延長36.1km）については、復旧工事を進めておりましたが、一定の工事進捗が図られたことにより、本年10月末までに通行止め解除の予定となりました。詳細な通行止め解除日時は改めてお知らせします。



↑バナーをクリック↑
工事の進捗を随時更新

十勝オホーツク自動車道「陸別小利別IC～訓子府IC」が10月9日に開通します

「十勝オホーツク自動車道」は、高速ネットワークの拡充によるオホーツク圏と道央・十勝圏の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び物流の効率化、広域観光周遊等の支援を目的とした足寄町から北見市を結ぶ高規格幹線道路です。帯広開発建設部及び網走開発建設部で整備を進めていた陸別小利別IC～訓子府IC 16kmの区間が10月9日（月）16時に開通します。

同区間の開通の効果については、報道発表資料で詳しく紹介しています。

→→報道発表資料へリンクします←←